

音更町総合計画推進委員会会議結果（要旨）

会議名	音更町総合計画推進委員会（平成26年 第2回）
開催日時	平成26年11月10日（木） 午後7時から午後9時
開催場所	音更町役場 庁舎2階 第1・2委員会室
委員出席者	津久井委員、林委員、畠委員、土田委員、山本委員、河田委員、赤嶺委員、山西委員、加藤委員、中島委員
事務局出席者	高木企画財政部長、渡辺企画課長、定村企画調整係長、高田企画調整係主任、阪本企画調整係主任、松原企画調整係主事
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 重点施策推進管理評価調書の検証について 4 その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次回のスケジュールについて
会議資料	※第1回目で配付した資料を使用 （資料1）音更町総合計画推進委員会について、 （資料2）第5期総合計画推進管理評価調書について （資料3）目標指標実績一覧表 （資料4）平成26年度 音更町まちづくり町民アンケート結果報告書 （資料5）各事務事業内容の説明一覧 （冊子）第5期音更町総合計画
会議資料 出された主な意見等	議案についてはホームページに添付しています。 （重点施策推進管理評価調書の検証について） ○重点施策1に対する意見 委員：「農業総生産額」について、基本計画の33ページに現状値が207.1億円とあり平成25年度まで数値が上がっています。目標値の中間数値と最終値について捉えにくいのは理解しますが目標値は必要と思います。施策には生産コストの軽減と効率化や営農技術、生産量の向上などを掲げています。また、両農協の中期計画等もありますので目標数値は必要と思います。25年までは233億円、現状数値として207.1億円となっていますが「町の反当たり総生産8万を9万に」などの目標数値を出していくことが必要と思います。 事務局：農業の目標数値が「平成23年度の農業総生産額以上」となっていて具体的ではないとの件ですが、総合計画策定時には、「戸別所得補償制度」に切り替わる時期で、その制度によりどのように変化が起きるのか全く予測をつけることができませんでした。その中で数値目標を決めることが難しかった現状があり、このような表現をした経緯があります。 来年は基本計画の見直しですから、その中でこれらの目標数値をどうするかとの話になりますので、委員から今いただいたご意見もそこで反映させていただけるものと考えています。 委員：「持続可能で安定性のある農業経営が展開できる施策を進めます。」を進めるために評価する数値が農業生産額とありますが、持続で安定を考えるとＴＰＰ問題や6次産業等の将来的な展望も含めた数値の方が解りやすいと思います。 また、3ページ右側の「2. 代表的な成果の推移など」に「音更高等学校農業科生徒数」とありますが、生徒数も大事ですがこの子達が卒業後に農業に就いているのか、後継者枠の中で農業をしているのかなどの数字の方が後継者育成に直結するようになります。 委員長：総合計画策定時はまだＴＰＰ問題はありませんでした。どのような施策の評価スタイルが良いのかと意見が昨年その前も出て審議されました。なお、今回と次回では、事務局から出されているこの評価調書の評価を基に、より積極的なご意

見やご提案などをいただきたいと考えております。

音更高校生生徒数につきましては、その項目の3番目に「新規就農者数」があり、この部分と連動して考えていただければと思います。新規就農者数が音更高校の卒業生とは限りませんが、まずは農業を学ぶ生徒の数があってその中で新規就農者が過去4年で毎年同じ位の方が農業に就いているのが分かります。

委員：「モール温泉を利用した化粧品が新たに開発」と記載されていますが、このことを知らない方も多いと思います。もう少し町民にも分かるように周知した方がよいと思います。

委員：音更は長芋など色々としています。ホテルで 사용되는食材で、地場産の物が実際に利用されているのか疑問に思います。地場産を使うということは食育も含めて当然この計画で進める必要があると思います。この評価の中で観光客に音更で取れた野菜をホテルやお土産屋さんなどで積極的にPRしていく必要があると思います。

委員：IC工業団地の拡張も魅力発信施設もICの南側とのことですが工業団地に含まれますか。また、進捗状況として非常に時間がかかるものと感じます。色々な問題を考えると非常に難しいと思いました。

委員：魅力発信施設とか場所を増やしていくことに重点を置いているのですか。

事務局：両宮館跡地を中心とした温泉街再開発事業は町としましては、十勝川温泉の中の新たな魅力発信の施設になると思っております。ただ、基本構想の中で位置づけた新たな魅力発信エリアは十勝川温泉とは別にインターチェンジ周辺になります。インターチェンジ周辺の魅力発信施設の構成をどのようにしていくか、どのようなコンセプトで、どのような業種の方に運営していただきたくさんお客を集めていただくのかなどの仕組みをワークショップ等で計画していく時期であります。場所を決めてこのエリアにどういう規模の建物を建てるかの具体的な設計を行うのではなくコンセプト作りを進めています。

委員：そのようなことを考えている方は他にもいると思いますので、それらを支援していくことも盛り込んでいくことが必要と思います。

○重点施策2に対する意見

委員：河川が年々ヤナギが生い茂って景観が悪くなっている感じがします。河川を散歩しようとしてもヤナギが多すぎて歩けない状況です。

委員：泊原発が停止したから温室効果ガスが高まっていると記載されていますが、各自治体の議会で原発反対の決議が行われている状況の中で“泊原発が停止したから温室効果ガスが高まって”ではなく、それを抜いても温室効果ガス対策は必要と思います。自然エネルギーを含めて十勝に合った温室効果ガス対策を進めていただきたい。

○重点施策3に対する意見

委員：町内会組織で“防災”に取り組んでいると思いますが、今現在の町内会の数は。また、次のページに自主防災組織が組織化されたのが58で、達成率が38.1パーセントとなっています。町内会の自主防災の組織が58件立ち上がったということですか。

事務局：58パーセントです。総世帯数に対して自主防災組織を立ち上げている割合です。

委員：町内会で防災講習などは町職員が来て色々してくれますが、その先に進むことができません。独居老人の対応で「自分でできるから大丈夫」や「他人の世話にはなりません。」とか言う人がいるのではないか。その場合は誰に連絡すればいいのかなど分からない事が多いです。それらも連動していかないと災害が起きた時に昼間なら働いている方達は町内に居ないのですから、誰が守るのか。そういうことを想定した訓練などを防災の日とかに位置づける必要があると思います。

委員：防災について、町内会に加入していない方も増えています。その辺も踏まえて考える必要があると思います。

事務局：現在は、町内会加入率が低く自主防災組織の低さにも繋がっています。自主防災組織を立ち上げてその方々に声をかけても中々加入していただけないのが現状です。災害発生時は、その方達も最寄りの会館等に避難します。その時には町内会単位で集まるように考えていますので、未加入の方が多く非常に混乱するのではないかと思います。

東日本大震災の発生時には、音更町の組織率は上がりましたが、現在に至っています。行政としましても働きかけて加入率を上げていきたいと考えています。

委員：公園施設の長寿命化計画について、施設単体の見直しではなく、地域の高齢化などの問題や周辺の状況、公園までのアクセス若しくは公園と公園を繋ぐアクセスとか配置なども含めて計画を立てられると良いと思います。

委員：「歩行者の安全をはかるための歩道の設置」や「段差の解消」などありますが、古い団地ですと道路がボコボコで歩道もアップダウンしています。街路樹も花などをたくさん植えて美化運動として大事なことと思いますが、花を植えずぎると逆に街路樹が成長しすぎることがあります。東京近郊ですと街路樹を低くして障害にならないようにしていると聞いたことがあります。予算の関係もあるとは思いますが、まだ整備が必要な箇所があるという意見だけ述べさせていただきます。